

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### 【取り組みの事実】

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

### 【取り組んでいきたい項目】

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### 【取り組んでいきたい内容】

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### 【特に力を入れている点・アピールしたい点】（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームふれやか和
（ユニット名）	1. 2階
所在地 （県・市町村名）	北海道 北見市
記入者名 （管理者）	堀 由里子
記入日	平成 21年 5月 28日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念の中に「その人らしさ」をかかげ、取り組んでいます。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議の中で理念を念頭に置き、考えています。	○ 理念を追求し、職員の意識を今以上に向上させたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	パンフレットやホームの受付に理念を掲げて、理解をえられるようにしています。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	今年は町内会の班長にもなり、町内会の役割を果たしながら、近所の皆様とあいさつ・会話して馴染みの関係を作っています。	向えの家の子供さんと行き来もあり、消防訓練には町内8名の住民が参加されました。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の清掃やビールパーティ、花見、盆踊りなど、ホームへの協力を頂き参加しています。	近くの教会では、行事毎に招待を頂き交流しています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ホームの消火訓練に参加頂いたり、町内会の回覧板を利用し、高齢者福祉の情報を提供しています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を参考に、今後の改善点を話しあっています。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で、ホームの現状を話し合い協力頂いています。		無断外出者のSOSネットワークや、排泄時に使うウエスの協力を頂いています。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	報告書や申請書を市役所の窓口を持参し、必要であれば随時意見を頂いています。		市の研修、勉強会にも積極的に参加しています。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、地域権利擁護事業の利用者が2名います。		身内のいない利用者の金銭管理をお願いしています。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連の法令について説明し、利用者の身体状況を観察して、内出血、傷などの原因を追究しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族と直接話す機会を設け十分な説明を行い、不安や疑問を解決した上で契約を行っています。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見、要望に耳を傾け、利用者の不安や意見等は会議で話し合い、利用者がいきいきと生活できる為の支援に繋げています。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回の通信で暮らしの様子と預かり金等の残高をお知らせし、また健康状態について異変があればその都度迅速に連絡と相談を行い、面会時にも直接近況を報告してします。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者が苦情等の窓口になっていることを入居時に説明、家族の来所時などに意見を聴いている。外部の苦情受付機関については契約時に説明しています。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の会議で自由な意見を聴く場面を設け、職員からの提案について吟味し運営に反映させています。	○ 個人面談を行うなど、今後も職員との話し合いの機会を増やしていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者に変化のある時や外出計画等についてその都度話し合い、入居者の状態に合わせた対応ができるよう、勤務調整を行っています。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は最小限におさえ、やむをえず行う場合は異動した職員がユニット間を行き来するなど馴染みの関係が継続できるよう配慮しています。	○ バーンアウトによる職員の離職を防ぐ為、働く意欲を継続できるよう支援していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等に積極的に参加できるように促し、そのための勤務調整を行うなど多くの研修に参加しスキルアップできるよう努めています。	○	計画的に研修へ参加する機会を増やして職員全体が向上心を持てるよう取り組みたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は同業者との交流を積極的に行い、運営者及び職員同士が情報交換や共に勉強し意識を高めることが出来るようネットワークの構築に努めている。		当ホームの運営者がグループホーム協議会支部の副会長であり、常に同業者との交流とグループホームの向上に努めています。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職場外での交流を行い気分転換を図っている。運営者、管理者共に職員の要望を取り入れ働きやすい環境作りに努めている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得に関しては積極的に推奨、支援している。資格試験受験に際しては職場での勤務調整に配慮し、取得時には手当を支給し給与に反映させている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所希望時から本人の心配事について、よく話し合う時間を設けています。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の意向を真摯に受けとめ、ご本人のよりよい生活を検討しています。	○	家族の利用者に対する想いを大事にしたケアを、職員全員で理解し実行して行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所希望者の身体、精神、認知状況を把握し施設入所か、居宅支援かを判断しています。		担当のケアマネージャーとも協議を行い、ご本人と家族にあったサービスを考慮しています。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に利用者・ご家族に施設の見学を頂き、必要であれば入所体験を受け入れています。		入所前には出来るだけ多くの時間、ご本人に会う機会を持っています。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームでは、利用者の希望を聞きながら献立を考えたり、調理や、食後の後片付けを一緒に行ったりと、利用者に感謝の言葉をかけながら共に生活しています。		春には、近所に山菜を取りに行ったり、ホームの畑を作ったりしながら利用者が今まで培った能力を引き出す支援もしています。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事や誕生会のお誘いや、毎月の通信で個別のコメントを出しその時の様子を伝えています。職員は、顔なじみの関係を作るよう、対応しています。		職員として、家族と今以上に何でも言える関係になれるように対応して行きたいと考えています。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者の家族構成、生い立ち、生活歴を場面場面で聞き取りし、職員で共有しながら、本人の上手くいえない内面の気持ちを代弁し、家族に伝えています。	○	今後、利用者が自宅へもっと帰れるように支援して行きたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの散髪屋や、商店、墓参りに出向き、記憶が途切れる事のないよう努めています。		馴染みの人や場所の話をして回想したり、気軽にドライブに出掛けて、目で確かめ実感することで安心・満足していただきたいと考えています。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人一人の性格を考慮し、食堂の座る位置や、散歩する組み合わせを考えて、楽しく生活して頂けるように努めています。		新しい入所者が入った時等は、利用者同士の関係が良くなるように、職員が手厚く橋渡しして、慣れて頂けるようにしています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入所していた利用者が入院中であれば見舞いに行き、家族には年賀状や便りを出して出来る限り関係を維持しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者に一人ひとりに担当職員を付け、家族のように接し相談や望む生活を聞き取りして、実現に向け会議で検討しています。	○	センター方式を使って、より一層ご本人の理解を深め質の高いケアを行って行きたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、家族や本人から生活歴等を聞き取りし、ホームの生活で生かしています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎月の会議で個人個人の生活を尊重し、その人らしく暮らせるように身体的、病的、精神的な要素を検討しています。		病状については医療連携により、より専門的な視点で意見を聞いています。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意見や家族の意見は随時傾聴し、介護計画を立てています。	○	職員のチームワークを強化し、利用者にあった適切な介護を行って行きたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の会議では、常に利用者の対応について話し合い、ケアの変更を行っています。	○	見直しの都度、経過記録として残していますが、今後介護計画の変更を合わせて行って行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	他施設のアセスメントシートを参考にした、独自の個別記録を作成しながら、わかりやすく情報が共有できるよう工夫しています。	○	介護計画に反映できる実践と結果の記録を整えて行きたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個々の家族構成などを考慮して、家族が対応出来ない事項も利用者の希望があれば対応しています。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	向かいの下宿の管理人と交流を持ち、行き来しています。その他随時協力を要請しています。		無断外出者については、家族の了承を得て、近隣のガソリンスタンドに利用者の情報提供をして、見かけたときには通報と保護を要請しています。他、信金職員と公園の清掃活動を行っています。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者が退院後も病院でリハビリが出来るよう支援しています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議で虐待、認知症ケアについて情報を頂いています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科、脳神経外科、精神神経科、皮膚科と診療科目の違う医師の往診を受けており、常に相談できる関係が出来ています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	地域の精神神経科の往診を毎週受け、相談できる体制にあります。		内科の医師の紹介により、地域の脳神経外科に受診し認知症の悪化を予防できる体制があります。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	職員に准看護師がおり、訪問看護ステーションとの医療連携により、24時間体制で相談できるようになっています。		訪問看護ステーションと契約し週1回の訪問による看護連携を確保。その他医療保険での訪問看護体制も可能です。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中の見舞いで、看護師や介護士から利用者の状況を聞き取りして、退院の時期、退院後のケア方法等相談しています。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期になった場合には、医療連携を密にして対応したいと思っています。	○	今後、早い段階で重度化、終末期の方針を検討する必要があると思います。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホームは、利用者や家族の意向に答えられるよう医療連携、主治医の往診など取り入れています。		重度化や終末期に取り組まれている主治医が、月2回往診に来て頂ける等、協力体制が出来ています。
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退所時や入院時には、介護添書などでホーム情報を提供し、随時の問い合わせでご本人のサポートを行っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者の立場に立ち対応しています。個別記録にも他利用者にはイニシャルで記入するなど配慮しています。	○ 職員が気をつけて対応していても、何気ない言葉や対応で尊厳を損なっているかも知れないので、利用者を良く理解し対応して行きたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	「～しませんか」「～どうですか」等の声掛けで、利用者の判断を傾聴して接しています。	○ 表現できない利用者もいるので、注意深く観察しながらご本人の意向を汲み取って行きたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者には、ご本人のペースで生活して頂くようにしていますが、職員の人数も限られており、全ての希望に副える支援とは行かない現状もあります。	○ 職員の多い日に、外出を増やすなど、楽しみを多くもてる生活を提供したい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者が以前より通っていた美容院へ外出介助をして、気分転換やおしゃれを楽しんでもらっています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事につけるお絞りの用意や、職員も一緒に食事を取り、食後の片付けを皆で協力して行っています。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご本人の病状に合わせて、おやつや嗜好品を購入し、極力希望の物を食べて頂いています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレの排泄を基本として排泄チェックを行い、失敗が多くなった時には、ご本人に合った方法を会議で検討しています。		排泄介助の声掛けや、汚物を捨てる行為について、ご本人の立場に立った細心の配慮をしていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は職員が週に2回入れるように日程を予め決めていますが、その時のご本人の気分で変更を行っています。	○	ご本人の意向だけでは、入浴拒否が多くなりスキンケアが困難になってしまう事もあります。日帰り温泉や銭湯など利用して楽しく入浴できる機会を増やしていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	消灯時間は特に設けていません。夜間巡回時に睡眠状況を記録しています。	○	それぞれ心地の良い居場所を提供して、くつろいで頂いていますが、まだ環境整備の必要があります。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自発的な意向があれば全面的に支援をし、好きな事があれば協力して成し遂げられるよう努めています。		外出行事を多く持ち、地域交流や、他のグループホームと合唱団を結成し楽しんで頂いています。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の意向を踏まえ、利用者にお小遣いを持って頂き、買い物や自販機でジュースが買えるようにしています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日中はホーム玄関は施錠せず、職員に出掛ける事を告げて、自由に外へ出てもらっています。		SOSネットワークや町内の協力もあり、遠方へ一人で行かない事を理解頂き、今は自由に出入りして頂いています。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別にお墓参りや、住んでいた家、知人に会いに行くなど行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者に、贈り物が届いた時には、電話を掛けたり御礼の手紙を送って連絡しています。		手紙にはホームの様子を見て頂く為に、写真も一緒に送っています。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	職員は、家族等が施設に気軽に来所され、落ち着いて過ごせるような雰囲気に配慮しています。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法令順守し身体拘束はしていません。		身体拘束以外のロックである、ドラッグロック、スピーチロックについても職員の意識を高めています。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵を掛せず、職員の見守りで開放しています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はさりげなく所在を見守りし、夜間の巡回はドアの隙間から様子を確認しています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご本人や家族の了解を得て、危険物の確認を行い職員間で情報共有しながら、安全に使用できるよう努めています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員間の申し送りや記録で、リスクマネジメントを念頭においたケアを検討しています。	○	職員には、多様な事故に対して、より一層の知識を得て、利用者の安全に努めて行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時のマニュアルは完備して、会議や研修で把握しています。	○	今後、実践的な訓練を定期的に行って行きたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を実施し、向かいの下宿の学生に災害時の協力依頼をお願いしています。	○	利用者に合わせた避難方法や、地域の方の協力体制を明確にして行きたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	会議や申し送りで、気付いた事はすぐに検討し家族に報告しています。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行い、体調を確認して変化のある時には主治医に連絡するなど対応しています。		職員交代時には、申し送りや記録で利用者の変化を報告し情報を共有しています。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを個別に作成して、すぐに確認できる場所に保管しています。薬による禁食についても、台所に表記して確認しています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェックで便秘を確認し、排便を促す工夫をしています。		毎朝ラジオ体操の第1、第2を行った後、5分間の歩行練習をして終了後には、牛乳を飲んで頂いています。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後一人ひとりあった口腔ケアを介助しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の能力や習慣を考慮した調理法で、健康に留意した食事を提供しています。		塩分計測スプーンを利用し、減塩に努め、水分摂取については食間と就寝時、自室にペットボトルを置いて水分補給ができるようにしています。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルがあり、外出後は必ず手洗い、うがいを励行して、受診時にはマスクを装着し予防しています。		毎日、朝晩と室内の消毒を行って感染を予防しています。
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎夕食後、包丁、まな板、キッチンバサミ、布巾他台所用品を漂白剤で消毒しています。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>			
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先に自販機やベンチ、花を置き、近隣の方に利用して頂いています。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気の居間作りで、季節毎の花や行事の飾り付けをしています。	○	利用者の意向も取り入れて、心地よい空間を作って行きたい。
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前のソファで過ごしたり、食卓テーブルの椅子で過ごせるようになっています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には、使い慣れたものや好みのもを持ち込んでいただくように利用者のご家族に話しています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	湿度計により湿度管理、オール電化により室温を一定に保っています。		空気清浄機による脱臭や加湿器による湿度調整を行っています。
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物自体はバリアフリーで、主要箇所の手すりも完備しています。トイレに目印を付けて自立した排泄が出来るように工夫しています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者に恥をかかせない、試さない事を念頭に置き、自信の持てる生活を支援しています。		ホームでは、毎週金曜日に書道教室を行い、作品を展示して家族に見てもらい、自信の持てる支援をしています。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	利用者はホームの裏の畑で野菜づくりをして、草取りや収穫を手伝っています。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input checked="" type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input checked="" type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input checked="" type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開設して丸五年が経ち地域住民の皆様にもご理解とご協力頂き、町内会の行事にも沢山参加出来るようになりました。又、当ホームの主旨をご理解頂き支援して下さる皆様も沢山出来ました。まず、公園の清掃活動を手伝って下さる信金職員の皆様、無断外出をサポートして下さるガソリンスタンドの職員の皆様、そして、暖かく利用者を迎えて下さる教会の皆様などです。私達施設は、『地域で高齢者が安心して暮せる社会を作りたい』と願い、地域の皆様に協力を求めて参りました。地域に支えられ、地域の中で暮らすグループホームを目指して今後も努力して行きたいと思っております。